

報道各位

2022年7月13日
公益財団法人石橋財団 アーティゾン美術館

パリ・オペラ座—響き合う芸術の殿堂

2022年11月5日[土] - 2023年2月5日[日]



1



2

1. エドゥアール・マネ 《オペラ座の仮装舞踏会》1873年、石橋財団アーティゾン美術館
2. シャルル・ガルニエ 《ガルニエ宮ファサードの立面図》1861年、フランス国立図書館
©Bibliothèque Nationale de France

公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館（館長 石橋 寛）は、「パリ・オペラ座—響き合う芸術の殿堂」を開催します。

パリ・オペラ座は、バレエやオペラの輝かしい殿堂としてよく知られた劇場です。ルイ14世によって1669年に設立されたパリ・オペラ座は、その歴史を通して台本作家や作曲家、美術家に、芸術的な進展や技術的な革新を可能にする表現を常に注文してきました。この展覧会では、パリ・オペラ座の歴史を17世紀から現在までたどりつつ、さまざまな芸術分野との関連性を示すことで、その魅力を「総合芸術」的な観点から浮き彫りにします。特に対象とする時期は、19世紀から20世紀初頭。これはロマンティック・バレエ、グランド・オペラ、バレエ・リュスの時代にあたります。フランス国立図書館をはじめとする国内外の約250点の作品により、芸術的、文化的、社会的な視野からパリ・オペラ座の多面的な魅力を紹介し、その歴史的な意味を明らかにします。パリ・オペラ座と諸芸術との多様なつながりをテーマとする、これまでにない新たな試みです。

パリ・オペラ座とは？

フランスを代表する歌劇場。パリ 9 区の絢爛な建築は、19 世紀後半パリの近代化の一環として計画され 1875 年に完成、設計者の名に由来しガルニエ宮（オペラ・ガルニエ）とも呼ばれます。ルイ 14 世によって 1669 年に設立された王立音楽アカデミーを前身とし、350 年以上の間、台本作家や作曲家、美術家に、芸術的な進展や技術的な革新を可能にする表現を常に注文してきました。1989 年にバステュー歌劇場（オペラ・バステュー）が完成し、現在二つの劇場でバレエ、オペラの古典から現代作品までを上演しています。



パリ・オペラ座ガルニエ宮内観
© Jean-Pierre Delagarde / Opéra national de Paris

【本展の見どころ】

1. フランス国立図書館やオルセー美術館などから約 200 点の作品が来日

フランス国立図書館音楽部門には、パリ・オペラ座で上演した作品を中心に、フランスのオペラ、バレエ関係の資料が多く収蔵されています。本展はフランス国立図書館の所蔵する約 200 点をはじめ、オルセー美術館の所蔵するエドガー・ドガ《バレエの授業》など国内外から集結したオペラ座に関連する作品を紹介します。

3



3. フランソワ=ガブリエル=ギヨーム・レポール《悪魔のロベール、第 3 幕第 5 場の三重唱》1835 年、フランス国立図書館
©Bibliothèque Nationale de France

4



4. エドガー・ドガ《バレエの授業》1873-76 年、オルセー美術館
Photo © RMN-Grand Palais (musée d'Orsay) / Adrien Didierjean / distributed by AMF

2. 「総合芸術」的な観点からオペラ座の魅力を紐解く

ルイ 14 世の時代の舞台装飾家や衣装デザイナーから、19 世紀のグランド・オペラの作曲家やロマンティック・バレエのダンサー、さらには 21 世紀の演出家に至るまで、パリ・オペラ座が、あらゆる分野の創造者と連携して、いかにして自らの芸術方針を築いてきたのかを明らかにしていきます。

5



5. 《タンホイザーのポスター、1861 年 3 月 18 日》フランス国立図書館 ©Bibliothèque Nationale de France

6



6. 《シェヘラザードでのイダ・ルビンシュタインの髪飾り》1910 年、フランス国立図書館 ©Bibliothèque Nationale de France

7



7. クリスチャン・ラクロワ《翼に賭ける命のための衣装デザイン》1987 年、フランス国立図書館 ©Bibliothèque Nationale de France

3. オペラ座を描いたマネの 2 作品を展示

19世紀フランスの画家エドゥアール・マネ（1832-1883）は、パリ・オペラ座を題材とした作品を制作しました。アーティゾン美術館ではそのうちの一点を所蔵しています。本展は、ワシントン・ナショナル・ギャラリー所蔵作品とともに展示される貴重な機会となります。

8



9



8. エドゥアール・マネ《オペラ座の仮面舞踏会》1873年、ワシントン、ナショナル・ギャラリー
 9. エドゥアール・マネ《オペラ座の仮装舞踏会》1873年、石橋財団アーティゾン美術館

【その他の出品作品】

10



11



12



13



14



10. アントワーヌ・ヴァトー《見晴らし》1715年頃、ボストン美術館
 11. ジャン=バティスト・カルポー《ダンスの精霊 No.2》1872-1910年、オルセー美術館 Photo © RMN-Grand Palais (musée d'Orsay) / Tony Querrec / distributed by AMF
 12. ジャン=バティスト・エドゥアール・ドゥタイユ《オペラ座の落成式、1875年1月5日》1878年、オルセー美術館（ヴェルサイユ宮殿に寄託） Photo ©RMN-Grand Palais (Château de Versailles) / Gérard Blot/ distributed by AMF
 13. マルク・シャガール《オペラ座の人々》1968-1971年、ポーラ美術館 ©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2022 Chagall® C3919
 14. アルフレッド・エドワード・シャロン《『パ・ド・カトル』（カルロッタ・グリジ、マリー・タリオーニ、ルシル・グラーン、ファニー・チェリート）》1845年、兵庫県立芸術文化センター 薄井憲二バレエ・コレクション

【章構成】

序曲：ガルニエ宮の誕生

第1幕：17～18世紀

- (1) 「偉大なる世紀」の仕掛けと夢幻劇 (2) 音楽つきの「雅宴画」(フェート・ギャラント)
- (3) 新古典主義の美的変革

第2幕：19世紀[1]

- (1) ル・ペルティエ街のオペラ座 (2) グランド・オペラ (3) ロマンティック・バレエ
- (4) 衣装画家と装飾職人 *パリの観劇をめぐる

第3幕：19世紀[2]

- (1) グランド・オペラの刷新 (2) ドガとオペラ座 (3) 劇場を描く画家たち
- (4) ヴァーグナーの美学 *作家とオペラ座 *ジャポニスムとオペラ座

第4幕：20-21世紀

- (1) バレエ・リュスの招待 (2) 近代芸術とオペラ座 (3) シャガール、デザイナーへの要請
- (4) 演出家と振付師のオペラ *映画とミュージカル

エピローグ：バステューユのオペラ座の未来

【開催概要】

展覧会名： パリ・オペラ座—響き合う芸術の殿堂

主催： 公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館

協力： フランス国立図書館

後援： 在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本

会場： アーティゾン美術館 6・5階展示室

会期： 2022年11月5日[土] - 2023年2月5日[日]

開館時間： 10:00 - 18:00 (毎週金曜日は20:00まで) *入館は閉館の30分前まで

休館日： 月曜日 (1月9日は開館)、12月28日-1月3日、1月10日

入館料 (税込)： 日時指定予約制 (2022年9月6日 [火] よりウェブ予約開始)

ウェブ予約チケット1,800円、当日チケット (窓口販売) 2,000円、学生無料 (要ウェブ予約)

*当日チケット (窓口販売) はウェブ予約枠に空きがある場合に販売します。

*中学生以下の方はウェブ予約不要です。

*この料金で同時開催の展覧会を全てご覧頂けます。

*開催情報は予告なく変更となることがあります。

監修： 三浦篤 (東京大学大学院教授)

担当学芸員： 賀川恭子、田所夏子

アーティゾン美術館 〒104-0031 東京都中央区京橋 1-7-2

Tel: 国内 050-5541-8600 海外 047-316-2772 (ハローダイヤル) www.artizon.museum

アクセス：JR 東京駅 (八重洲中央口)、東京メトロ銀座線・京橋駅 (6番、7番出口)、東京メトロ・銀座線/東西線/都営浅草線・日本橋駅 (B1出口) から徒歩5分

同時開催

石橋財団コレクション選 特集コーナー展示

アート・イン・ボックス

—マルセル・デュシャンの《トランクの箱》とその後

4 階展示室では石橋財団コレクション選をご紹介すると同時に特集コーナー展示を設け、マルセル・デュシャンの《トランクの箱》（1952 年）を中心に《グリーン・ボックス》や《ホワイト・ボックス》等デュシャンのボックス作品に加え、これに影響を受けてその後展開した箱の形態の作品を展覧いたします。



左：マルセル・デュシャン《マルセル・デュシャンあるいはローズ・セラヴィの、または、による（トランクの箱）シリーズ B》1952 年、1946 年（鉛筆素描）© Association Marcel Duchamp / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo 2022 C3919

右：マルセル・デュシャン《彼女の独身者たちによって裸にされた花嫁、さえも（グリーン・ボックス）》1934 年 © Association Marcel Duchamp / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo 2022 C3919

会場：アーティゾン美術館 4 階展示室

担当学芸員：新畑泰秀

会期：2022 年 10 月 25 日[火] - 2023 年 2 月 5 日[日]

休館日：月曜日（1 月 9 日は開館）、11 月 4 日、12 月 28 日—1 月 3 日、1 月 10 日

*10 月 25 日[火]—11 月 3 日[木]についてのご注意事項

上記期間は 4 階展示室のみ公開、5 階・6 階展示室は休室します。

入館料：日時指定予約制（2022 年 9 月 6 日 [火] よりウェブ予約開始）

・ウェブ予約チケット 500 円

・当日チケット（窓口販売・ウェブ予約チケットが完売していない場合のみ）500 円

・学生無料（要ウェブ予約・中学生以下予約不要）

*この料金で、4 階展示室の石橋財団コレクション選のみをご覧ください。

【広報用図版】

掲載時には必ずクレジットをご記載ください。また、文字載せやトリミングはご遠慮ください。

*著作権保護期間中の 7 と 13、同時開催の作品図版のご使用については下記広報課宛にご相談ください。

■上記以外の図版は、下記サイトからダウンロードしていただけます。

広報用画像データのダウンロードはこちら

<https://www.artpr.jp/artizon/paris-opera>



本プレスリリースについてのお問合せ先
アーティゾン美術館 広報課 松浦・小川・宮武

*一般の方のお問合せ先は 050-5541-8600（ハローダイヤル）です。

E-mail: publicity@artizon.jp

TEL: 03-6263-0132（広報課直通・誌面への掲載はご遠慮ください。）

〒104-0031 東京都中央区京橋 1-7-2